



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

LOJAPR08/01- No.106

プレスリリース

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所

2008年3月14日

ブルキナファソ及びウガンダ共和国における 革新的稲作総合生産システムを通じた食料安全保障と 貧困削減のための農業・農村開発事業を実施 日本政府がFAOを通じ2事業、3億円の拠出を決定

国際連合食糧農業機関(FAO)は、日本政府より3億円の無償資金協力(貧困農民支援)を得て、ブルキナファソ及びウガンダ共和国において「食料安全保障と貧困削減のための革新的稲作総合生産システムを通じた農業・農村開発事業」(各国1億5千万円)を実施する。

このための書簡交換が、3月14日(金)ローマにて、ジェームズ・バトラーFAO事務局次長と、中村雄二駐イタリア国大使との間で行われた。

(別紙) 事業の背景、概要および期待される成果

本件問い合わせ先: FAO日本事務所
TEL: 045 - 222 - 1101
FAX: 045 - 222 - 1103
Email: FAO-Japan-Info@fao.org
www.fao.or.jp www.fao.org

ブルキナファソにおける食料安全保障と貧困削減のための革新的稲作総合生産システムを通じた農業・農村開発事業計画

1. 実施期間： 2年
2. 予算： 1億5,000万円
3. 受益者： 農家約4,000戸

4. 背景

ブルキナファソは低所得国だが、2002 - 2005年の人口増加が年1.24%に上り、2002年には1,200万人だった人口が2005年には1,320万人と急速に増加している。米は主要食物だが、上記と同じ期間の生産増加率は僅か年0.04%である。従って、人口増加に追いつくためには同国では年約11,400トンもの米を輸入しなければならない。

稲作は低地での天水田と灌漑稲作システムが主流である。低地の天水田では、主に豆類との輪作が普及している。しかし、農作業は伝統的な手作業が主流で肥料も利用されていない。不十分な水管理・不安定な水供給に依存しているその生産性は低い。灌漑地域では、農耕に家畜が利用されているが、人力に頼っている場合も多い。通常灌漑地域での単収は病虫害の影響にもよるが3 - 5トン/haとされているのに対し、ブルキナファソの平均単収が2005年で1.78トン/haであることを考えると、まだまだ改善の余地がある。その上、収穫後に必要な資機材不足によるロスが平均15 - 25%になるとされている。

このような低い生産性を改善するため、良質の種子・簡易で改良された農機具/農耕技術・効率的な資源利用による稲作農業生産向上を基盤とし、輪作・混作・養殖との連携も含めた革新的・持続的な農業システムを構築し、米の生産性向上及び収入増加による農村の食料安全保障の向上と貧困削減を支援する。

5. 事業目標

種子供給体制の整備、農業生産改良技術の普及、収穫後のロスの減少、米作 - 養殖連携により、米の生産性向上及び収入増加による農村の食料安全保障の向上と貧困削減を支援する。

6. 活動内容

- (1) コミュニティー/エコシステムを基礎としたアプローチ: 農業生態系別に灌漑地域と低地天水田から各3箇所のパイロットコミュニティを選択。
村や区域ごとで地元農民組合を通じて多数の農民参加を得て、農場でのデモンストレーションや農村現場における活動を進める。
- (2) 農民の能力強化アプローチ: 農民、特に女性や役人が、稲作総合生産システム活動を通してのトレーニングやワークショップ、マニュアル・冊子の作成・配布、情報交換・優良活動地域訪問等で能力・技術・知識の向上を図る。
- (3) 国家・地域融合性: 国の関係機関との協力はもとより、同国内で実施しているFAO、IFAD、WFPによる事業や、JICAやCGIAR、特にWARDAとの緊密な連携を図る
- (4) 持続性志向: 試験サイトでの結果に基づき、中期5年計画や稲作を基盤とする持続的農村開発政策を策定する。
- (5) 南南協力・アジア - アフリカ協力: 技術革新の為の専門家の雇用。

7. 期待される成果

- (1) 種子: 種子の品質管理・保障に関する政府の能力向上、稲作コミュニティ自身による種子企業の育成強化と種子産業の発展。
- (2) 革新的稲作総合生産システム: 小規模で適切な農機具・機材の導入・実証、品種改良、多角的作物の輪作、水管理の改善、直播きや不耕起栽培、畜産業との複合化を通じた肥料や飼料への有効活用。
- (3) 収穫後処理: 収穫後のロスの問題点の技術報告書、農民・技術者への資機材・技術に関する訓練、ポストハーベストセンターの復旧、収穫・乾燥・脱穀・洗浄・保存・精米に基本となる技術の普及。
- (4) 米作 - 養殖連携システム: 米作 養殖連携システムの実証、ガイドラインの作成、農家集団の形成、技術訓練マニュアルの策定。

ブルキナファソ地図



ウガンダ共和国における食料安全保障と貧困削減のための革新的稲作総合生産システムを通じた農業・農村開発事業計画

1. 実施期間： 2年
2. 予算： 1億5,000万円
3. 受益者： 農民約1万人

4. 背景

ウガンダは内陸国で、貧困ライン以下で生活している人口比が全体の38%にも上る(2002 - 2003年)。米は主食ではなかったが、都市化と給食の普及に伴って米需要が増加し、2005年時点で約12万トンの米消費量のうち6 - 7万トンを輸入に依存している。

2000年以降、ウガンダ政府は米増産・自給を国の貧困削減の為の最優先事項政策の一つとして推し進めている。しかし、品質の高い種子が十分に普及しておらず、その上、生産方法も高地栽培では焼畑農耕が中心で、土壌浸食が進み肥沃度を減少させ、また、肥料も低地の天水田地域で少量の有機肥料が使用されているのみである。農機具も手作業用が中心である。このような伝統的生産手法が主要な為、生産性も1ヘクタール当たり平均2トン以下と低い。その上、収穫後の必要な資機材不足によるロスが平均15 - 25%になる。従って、米生産者は辛うじて自給自足できるレベルの生産性しかなく、市場で余剰米を売り収入を得るには至っていない。

FAOを通じた日本の無償資金援助によるネリカ生産普及拡大事業は、2006年に開始して1年のうちに、食糧及び換金作物としての米生産増産並びに農家収入増加へ目覚ましい成果をもたらした。この米生産による貧困削減の成功を裏づけとし、本プロジェクトでは良質の種子・簡易で改良された農機具/農耕技術・効率的な資源利用による稲作農業生産向上を基盤とし、輪作・混作も含めた革新的・持続的な農業システムを構築し、米生産性向上及び収入増加による一層の農村の食料安全保障の向上と貧困削減を支援する。

5. 目標

種子供給体制の整備、農業生産改良技術の普及、収穫後のロスの減少を通じて、米の生産性向上及び収入増加による農村の食料安全保障の向上と貧困削減を支援する。

6. 活動内容

- (1) コミュニティー/エコシステムを基礎としたアプローチ：農業生態系別に高地と低地天水田から各3箇所のパイロットコミュニティを選択。
村や区域ごとで地元農民組合を通じての多数の農民参加を得て、農場でのデモンストレーションや農村現場における活動を進める。
- (2) 農民の能力強化アプローチ：農民、特に女性や役人が、稲作総合生産システム活動を通してのトレーニングやワークショップ、マニュアル・冊子の作成・配布、情報交換・優良活動地域訪問等で能力・技術・知識の向上を図る。
- (3) 国家・地域融合性：国の関係機関との協力はもとより、同国内で実施しているFAO, IFAD, WFPによる事業や、JICA, CGIAR、特にWARDAとの緊密な連携を図る。実際にFAO本部専門スタッフとJICAその他国際機関の専門家が直接話し合える機会や連携のための経費を増やす。

- (4) 持続性志向: 試験サイトでの結果に基づき、中期5年計画や稲作を基盤とする持続的農村開発政策を策定する。
- (5) 南南協力・アジア - アフリカ協力: 技術革新の為の専門家の雇用。

7. 期待される成果

- (1) 農村部約1万人の食料安全保障・収入が米生産効率の向上・収穫後ロスの減少・市場付加価値の向上等により改善され、中期5年計画や稲作を基盤とする持続的農村開発政策策定により国家レベルの能力が向上。コミュニティー・村落レベルでも、生産性向上・事業のモニター/評価・収入向上・環境保全・政策策定等観点からの能力が向上する。
- (2) 種子: 種子の品質管理・保障に関する政府の能力向上、稲作コミュニティー自身による種子企業の育成強化と種子産業の発展。
- (3) 革新的稲作総合生産システム: 小規模で適切な農機具・機材の導入・実証、品種改良、多角的作物の輪作、環境保全型農法、水管理の改善、直播きや不耕起栽培、畜産業との複合化を通じた肥料や飼料への有効利用。
- (4) 収穫後処理: 収穫後のロスの問題点の技術報告書、農民・技術者への資機材・技術に関する訓練、ポストハーベストセンターの復旧、収穫・乾燥・脱穀・洗浄・保存・精米に基本となる技術の普及。

ウガンダ地図

